

東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

大学院総合国際学研究科

博士前期・後期課程案内

2021

Tokyo University of Foreign Studies

TUFS

2021 Studies

Contents

研究科長メッセージ	2
総合国際学研究科概要	3
博士前期課程	4
将来につながるキャリア	4
ダブル・ディグリープログラム	5
世界言語社会専攻	6
国際日本専攻	8
開講科目	9
博士後期課程	10
世界言語社会専攻	10
国際日本専攻	11
共同サステナビリティ研究専攻	12
教員一覧	13
主な就職先	14
2021年度入学者選抜日程	15

研究科長メッセージ

近年、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大ほど私たちが生きる現代社会の実情を露わにしたことはありません。そして、この目に見えない小さな存在は、人の命と生活を守るために私たちは何をすべきなのかという大きな問いかけを突きつけました。「コロナ後」の社会を構想するためには、今こそ、深い教養と広い視野のもとで、人・文化・社会の本質的な意味と価値を考える力、すなわち「人文学の知」を再評価すべき時であるとの思いを強くします。

東京外国語大学の大学院総合国際学研究科は、このような「人文学の知」の探究を前提に、世界諸地域の言語の運用能力を基礎とした、言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究の伝統を特色とする教育機関です。修士の学位（学術、文学、言語学、国際学の4分野）を授与する2年間の博士前期課程と博士の学位（学術）を授与する3年間の博士後期課程からなる2つの課程で構成されています。

本研究科は、1966年の設置以来、時代の変化に応じて刷新を図ってきました。2016年度には博士前期課程を、2018年度には博士後期課程を改編し、それぞれに「世界言語社会専攻」と「国際日本専攻」を設置しました。この結果、言語文化学部と国際社会学部が前者に、国際日本学部が後者と接続することで、学部と大学院のつながりを明確化しました。

世界言語社会専攻では、多様な問題に対して、俯瞰的な視点によって物事を捉える総合力と、コミュニケーションやコーディネーションの具体的な実践力を併せもった人材の養成を、国際日本専攻では、国内外の先進的研究者を招聘して、世界の中の日本を客観的な視座から理解し、世界に向けて日本を発信できる人材の養成を目指しています。

2019年度には、西東京の国立三大学である東京農工大学、電気通信大学、本学が文系と理系の垣根を越えて手をつなぎ、全国でもユニークな「共同サステナビリティ研究専攻」を設置しました。この博士後期課程のみの専攻では、貧困、紛争、食料・資源、エネルギー・環境、情報・ICTなどの地球規模の課題の解決に貢献できる文理協働の博士人材の養成を目指します。

さらに、2020年度には、中央ヨーロッパ大学、フィレンツェ大学、新リスボン大学などと連携し、本学と世界の学生たちがヨーロッパと日本を遊歴して二つの修士号学位の取得を目指す博士前期課程ダブル・ディグリープログラム「公共圏における歴史」（通称HIPS）を開始しました。このプログラムでは社会の様々な場面で表象される過去を解きほぐすことで、新しい社会の構築に向けて、現場で活躍できる人材を養成します。

これらに加えて、博士前期課程を修了したのち社会で活躍しようとする院生を支援するための「キャリア・プログラム」や「専門領域単位修得証明制度」を設けたり、院生の研究活動を研究科全体で体系的に支える学内学会の運用を始めたりしています。

このように常に生まれ変わっていく本学大学院において、新たな視点による世界と日本についての理解を探究し、「総合国際学」をさらに深化させようとする私たちのチャレンジに、皆さんが熱意をもって参加してくださることを心より願っています。武蔵野の落ち着いた雰囲気が残るこの府中キャンパスで皆さんをお待ちしています。

大学院総合国際学研究科長 青山 亨

世界を学ぶ、日本を学ぶ
博士前期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻の
2つの専攻からなります。

世界言語社会専攻	<ol style="list-style-type: none"> 1 言語文化コース 2 国際社会コース 3 Peace and Conflict Studies (PCS) コース
国際日本専攻	<ul style="list-style-type: none"> 国際日本コース 日本語教育リカレントコース

人文社会科学諸分野を究める
博士後期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻、
共同サステナビリティ研究専攻の
3つの専攻からなります。

世界言語社会専攻	国際日本専攻	共同 サステナビリティ 研究専攻 2019年度新設
----------	--------	--

東京外国語大学大学院総合国際学研究科は、世界諸地域の言語・文化・社会を
めぐる個別かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これら
の分野における国際的拠点としての使命を担っています。

従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言
語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を越す伝統を誇っています。その後、
本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸
地域の言語・文化・社会の研究と教育も行うなど世界的な拠点となっています。また、
日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。このような背景をもつ本学大学
院は、研究者を含む高度職業人の養成を目指しています。グローバル化が進行する現
代社会では、真に貢献できる人材に対し、専門分野のより深い知識や高度な技能が求
められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍
するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍することを目指す皆
さんの挑戦を待っています。

将来につながる キャリア

大学院は専門的な研究の場であると同時に、修了後の皆さんを社会へとつないでいく場でもあります。専門分野での学術的な研鑽を活かすためにも、次のステップを意識した準備を進めましょう。大学院博士前期課程では、修了後のキャリア形成につながる複数のプログラムを用意しています。これらは、いずれの専攻、コースに所属していても履修することができます。一定の単位を満たした場合には、キャリア・プログラムごとに「プログラム修了証」が授与されます。大学院での学びを活かし、世界や日本のさまざまな現場で働く「夢」をもつ皆さんを、後押しします。

キャリア・プログラム

キャリアにつながる幅広い知識・技能の学修を目指したプログラム

Program 1

日本語教育実践プログラム

世界の各地や日本のさまざまな場所で、日本語をきちんと教えることのできる人が必要とされています。だからこそ、「日本」を専攻する大学院生だけでなく、世界の「言語・文化・社会」を学ぶ大学院生の多くに履修してほしいのが、この日本語教育実践プログラムです。外国語としての日本語とその教え方について学び、短期の実習も行います。在学中および修了後に、国内外で日本語を教えるための基本的な知識と経験を獲得しましょう。

Program 2

多文化コーディネーター養成プログラム

多言語・多文化化する日本では、教育、行政、地域社会などの各分野で、文化や価値観の異なる人々との共存に向けてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、日本社会の今を多面的に学び、多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。専門分野の研究にあたる一方で、プラスαの多文化コーディネーション力も身につけましょう。

Program 3

CEFRに準拠した新しい外国語教育プログラム

現在、世界の外国語教育は、学習者の習得レベルを示す国際標準規格である「ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages：通称CEFR）」に基づいた教授・学習・評価が中心になりつつあります。このCEFR準拠の外国語教育の理念や方法を理解し、各言語においてCEFR利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたい、外国語を活かして仕事をしたいという大学院生に有益なキャリア知識・技能となり、将来プロとして働く際の必要な素養の一つとなるでしょう。

Program 4

世界史教育プログラム

「世界史教育1」では、意欲の高い高校教員向けの世界史セミナーへの参加を中心に、歴史教育の深みと現状に触れます。また、「世界史教育2」では、歴史学方法の基礎と史料の読み方について実践的な教育を受けます。

Program 5

国際行政入門プログラム

将来、官公庁等で行政に携わろうとする大学院生に向けたプログラムで、行政に必要な政治学と経済学に関する基礎知識とその考え方を習得します。また、国家公務員採用総合職試験（院卒者試験・大卒程度試験）、外務省専門職員採用試験を中心に、公務員試験の専門試験（多肢選択式、記述式）に対応できる基礎的な知識を身につけ、実践的な解法を習得します。

専門領域単位修得証明制度

専門的なキャリアを目指したプログラム

博士前期課程の在学中に特定の領域に関して身につけた専門的な知識・技能を修了時に証明する仕組み「専門領域単位修得証明制度」を設けています。現在、右に示した領域について、この制度に基づく証明書の発行を行っています。この証明書によって修了生は学修の成果を具体的に示すことができます。キャリア・プログラムが幅広い知識・技能の学修を目的としているのに対して、本制度ではより専門的な知識・技能の学修を前提としています。

本制度の対象となる領域と発行される証明書の名称は次のとおりです。

1 | 英語教育学

専門領域「英語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching English as a Foreign Language)

2 | 日英通訳翻訳実践

専門領域「日英通訳翻訳実践」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Japanese-English Interpreting and Translation)

3 | 日本語教育学

専門領域「日本語教育学」単位修得証明書
(Specialization Certificate in Teaching Japanese to Speakers of Other Languages)

ダブル・ディグリープログラム

「公共圏における歴史(HIPS)」

日本とヨーロッパの間で合同に展開する
ダブル・ディグリープログラム (博士前期課程)

hips

フィレンツェ大学



フランス国立
東洋言語文化大学



新リスボン大学



中央ヨーロッパ大学



本プログラムは、日本の文部科学省とEUのErasmus Mundusの支援のもと、本学とEU圏4大学とがコンソーシアムを組み、2020年度より本格的に始動しました。EU側の拠点校である中央ヨーロッパ大学（ハンガリー／オーストリア）と、本学博士前期課程在籍者の中から選抜された学生が合流し、日欧の複数の大学を1セメスターずつ移動しながら、2年半かけて2つの修士号の取得を目指します。Mundus（世界）という語が示すとおり、世界中から多様な学生が集まり、世界のあらゆる地域を研究対象とするプログラムです。

テーマとなる「公共圏における歴史」は、歴史と現代社会とのかかわりを対象とする研究領域です。映画や小説に描かれる歴史、モニュメントや博物館展示、歴史をめぐる論争などを手がかりに、公的領域において歴史がどのように表象され、対立や和解を繰り返しながらいかに制度化されているかについて探究します。

本プログラムは、学術的な視点に立って歴史に関する知を生み出し、それを実践に結びつけることのできるグローバルな人材の育成を目指します。

世界言語社会専攻

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、複合的・総合的に捉える視点から研究し、地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

言語文化コース

本コースでは、東京外国語大学における言語研究および文化研究の長い蓄積を活かし、世界諸地域の言語・文化に関する専門的教育研究を推進します。英語教育や実践的な通訳翻訳教育も、本コースに含まれます。言語研究の分野では、個別言語に関する文法論や形態論、意味論、語用論などのほか、一般言語学や社会言語学、対照言語学、音声学、言語情報学などを扱います。文化・文学の分野では、世界の諸言語で書かれたテキスト（詩、小説、哲学、思想など）に依拠した研究や、伝統文化や超域文化、古典文化を扱う研究が可能です。本コースでは、世界の言語現象や文化現象への理解を深め、複雑化する言語や文化の状況をより正確に把握し、対処する能力をもった人材を養成します。

国際社会コース

本コースでは、世界諸地域の社会ならびに国際社会に関する専門的教育研究を推進し、コーディネート力、コンフリクトへの耐性を備えた人材を養成します。キーワードは、ローカルとグローバルです。そして、求められているのはその2つの融合です。ローカルな地域研究はもはや存在しません。地域概念そのものがグローバル化によって再編成されているからです。一方、グローバルな国際関係論や政治学、経済学の研究もローカルな現実への理解なくしては、問題の真相に迫ることができません。本学の国際社会コースは、東京外国語大学における長年の地域研究の蓄積を活かし、グローバル化する現代社会を深く理解し、問題解決に資する人材を養成します。

Peace and Conflict Studies (PCS) コース (10月入学)

紛争を抱えた地域の諸大学とのネットワークを活用した紛争・平和構築に関する研究を推進し、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育はすべて英語で行われます。

アジア・アフリカフィールドサイエンス研究プログラム

世界言語社会専攻の複数のコースを横断するプログラムとして開設されています。「フィールドサイエンス」とは、臨地調査（フィールドワーク）を理論的・実践的に高度化した研究手法のことです。この手法を用いて、アジア・アフリカの諸地域に分け入る研究を指導します。



本プログラムは、専攻共通科目の「アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎」「アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究」、言語文化コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究」、国際社会コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究」からなっており、本学のアジア・アフリカ言語文化研究所の教員が指導します。夏学期には、他大学の学生とともに学ぶ「中東☆イスラーム教育セミナー」が、本プログラムの一部として開催されます。

2019年度修士論文

コース	修士論文の題目
言語文化コース	ロベルト・ボラーニョ『お守り』の語りにおけるトラテロコ事件の断片と延長
	Ai'の語性から探る、チェコ語の品詞「助詞」の助詞性
	第二次世界大戦におけるプロパガンダ芸術比較
	ロシア語の前置詞を含んだ数量詞句と格環境について
	現代インドにおける女性労働 —インフォーマルセクターを中心に—
	クメール語の動詞の文末における用法 —文末詞/təv/の場合—
	タイ語における自動詞及び他動詞の対応
	フランコプロヴァンス語における単数形、複数形
	現代アイスランド語における叙述所有 —無生物所有者の現れる例を中心に—
	ラビンドラナート・タゴールの戯曲における「タクルダ」
	エリマス・カネッティの『眩暈』における「目」の機能 —「書物人間」の世界認識と視覚—
	ロマンシェ語、フランコプロヴァンス語、イタリア語の計量方言学的分析
	コミュニティ通訳における感情管理モデル
	ロシア革命期の思想における観念論 —建神主義とレーニン主義の共通項を探って
	ラオ語の受身表現に関する研究 —/thui'uk/に着目して—
	フレデリックの作品における「逆行」と「反転」 —回文詩「ラージン」とその周辺から—
	キューバ映画の公共圏 —1960年代を中心に—
	スペイン語の場所格交替に関する認知言語学的研究
	日本人英語学習者の冠詞エラー分析 —他のアジア圏英語学習者と比較して—
	ポーランド語の「礼儀」に関する社会言語学的考察 —謝罪・感謝・ほめを中心に—
タイ語の前置詞 /dūay/, /dooy/, /káp/ について	
意味解釈におけるアフォーダンスの役割 —英語動詞sprayの壁塗り交替の事例—	
オメル・セイフェッティン作品の再評価：オメル・セイフェッティン作品に見られる子ども性とオスマン帝国末期における子ども性ととの比較分析	
分析的採点方法によるスピーキングテスト採点における採点者トレーニングの効果	
日本語口頭会話における「彼」「彼女」という翻訳語：一般的認識と通訳教育の差異に関する考察	

後修飾による名詞句の習得における明示的説明の指導順序の効果検証 —日本人中学生に対するディクトグロスとタスク活動の運動指導において—
絶滅危惧植物、アサザ等の保全活動における用語集
日英翻訳「日本のアニメーションはいかにして成立したのか」
カズオ イシグロの小説の中のギャップについて —「遠い山並みの光」、「月の名残り」、「私を離さないで」の中の信頼できない語りの研究
中国語における認知的モダリティの“要”に関する研究 —時間論による日中の対照分析に基づいて—
南琉球宮古語久松方言の形容詞 —その記述的研究—
蕭紅の小説『呼蘭河伝』における語り手「私」 —三つのアイデンティティから考える—
職場におけるインドネシア人技能実習生の宗教的実践：ムスリム労働者受け入れの課題
バビメント語におけるテンス・アスペクト
現代バングラデシュ文学作家ハサン・アズル・ホクの小説『火の鳥』より —その結末について—
日本の児童の為に絵本を使用したプロジェクト型英語活動の展開
ジャワ語を母語とする日本語学習者の無声閉鎖音と無声摩擦音の音響音声学的研究：促音と拗音が関与する対立に着目して
EFLのコンテキストにおけるリスニング不安の実態 —日本人と中国人の比較より
無人称文を通して行うチェコ語 —英語対照研究
スペイン語の包括表現 —トランスジェンダーとXジェンダーを中心に
現代ラオ語における /kʰɛw/ の多義性について
エドワード・ウスベンスキー著『魔法の川をくぐって』についての一考察 —「民話のアダプテーション」という視点から—
モンゴル語ハルハ方言における接尾辞 —jAの意味機能について：コーパスに基づく研究
現代モンゴル語の相互表現
日英翻訳『30の発明からよむ日本史』
日本映画の英語字幕分析と「わかりやすい」字幕翻訳に関する考察

コース	修士論文の題目
国際社会コース	沖縄の戦後記憶をめぐる考察 —「平和の礎」の事例を通じて
	パキスタンにおけるトランスジェンダーに対する寛容性 行政・宗教・メディアとの関係から
	文化外交としての対外文化遺産保護政策
	兵士と家族の手紙に見る第一次世界大戦 —パピオン家書簡集（1914年—1918年）を手がかりに—
	ブラジルにおける社会運動としてのアグロエコロジー：労働者党政権がもたらしたもののタジキスタンにおける日本語教育の現状と課題
	正常化体制期における「チェコスロヴァキア」論
	王兵の衝撃 —中国インディペンデント・ドキュメンタリーの現在を考える
	能力主義とジェンダー：育児言説を中心に
	ベ平連と女たち —長崎へ平連を中心に—
	目取真俊と〈現場〉：傷ついた身体が語りだす戦争記憶の空間と共同性について
	「発達障害」はどのように語られているのか —医療化論を手がかりに—
	ウガンダ難民法（2006年）の制定過程と要因分析 —なぜウガンダは世界一難民に寛容な国となったのか—
	バングラデシュの女子児童労働に関する研究 —家事使用人労働を事例に—
	アメリカ合衆国における非法移民の見られ方 —Plyler v.Doe (1982) を基に—
	韓国における農村小規模学校の地域と連携した学校再生運動
	広報文化外交と2020東京オリンピック招致活動
	韓国におけるハンセン病政策 —1960年代の定着村事業を中心に—
	北朝鮮の核問題をめぐる米朝交渉の研究

EMIの視点から見る日本における高等教育の国際化 —東京外国語大学の事例を中心に—
在日中国系児童生徒を対象とした学習支援の現状に関する考察 —地域のボランティア活動を中心にして—
江戸時代における日本人の西洋文化受容について —蘭学者渡辺崋山を中心として
私費中国人留学生の異文化適応と居住環境の関係 —首都圏国立大学に在籍する留学生を対象として
ベトナム技能実習生の日本法律の理解度
スリランカにおける日本語話せるツアーガイドの役割及びスリランカのホストと日本のゲスト間の異文化コミュニケーションへの影響
中央アジアにおける資源開発
2013年以降のブラジルの社会運動における非政党的で自律的な政治文化の継承
「モンゴルの選挙運動におけるSNSの影響と変化」 —2017年のモンゴル大統領選挙を事例に—
複数の文化的・人種的背景を持つ人々の日本における適応に関する分析
アキオの聖人、或いは知の叛逆者 —叛役のトマス・アフィナス像に対する歴史学的再定義—
発展途上国におけるシェアリングエコノミー受容
中国人留学生における留学幹族社会のサービス利用と異文化適応に関する考察 —私費留学生の進学ストレスを中心に—
中国における日系企業の異文化コミュニケーションに関する研究 中国人社員のインタビュー調査を中心に
カザフスタンの多言語教育政策 —「三言語教育学校」制度導入の問題点—

コース	修士論文の題目
Peace and Conflict Studies (PCS) コース	EXAMINING THE NATURAL RESOURCE ABUNDANCE CONUNDRUM AND EMERGING COMMUNITY DEVELOPMENT AGREEMENT IN POST-WAR SIERRA LEONE. CASE STUDY OF SIERRA RUTILE COMMUNITY DEVELOPMENT INTERVENTION
	ARCTIC SECURITIZATION IN THE AFTERMATH OF THE UKRAINIAN CRISIS
	Enlightening Movement from Mobilization to Demobilization: Dynamics of Contentious Politics in Afghanistan
	THE MARGINALIZATION AND ETHNIC-POLITICIZATION OF FARMER-HERDER CONFLICT: A CASE STUDY IN ASANTE AGOGO-GHANA, 2000 TO PRESENT.
	Gendered and gendering politics of the post-secular human security
	TRANSITIONAL JUSTICE MECHANISMS: AN EXAMINATION OF THE IMPACTS OF RESTORATIVE JUSTICE SYSTEM ON PEACEBUILDING IN TIMOR-LESTE

Absence of Military Law in Japan: domestic factors informing a dangerous and unique phenomenon
WITHOUT DEMARCATION: THE DYNAMIC OF SINO-INDIAN BORDER DISPUTE
What is escalating the "legitimacy crisis" of CCP and the anxiety of middle class in China?
Caught Between Worlds: Examination of the Social Polarization Phenomenon. A Case Study Focusing on the Female Palestinian Citizens in the Israel society.
INTERNAL AND EXTERNAL DETERMINANTS OF THE RUSSIAN TERRITORIAL DISPUTES POLICY
Violence in Iraq: A Study on Ba'athism and its implications for sectarian dynamics from 2006-2009

国際日本専攻

国際日本専攻では、世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の多様な文化・社会の中での日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。

国際日本コース

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の多様な文化・社会の中での日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。研究領域としては、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本語文学・文化研究」「日本社会研究」の4つで構成されます。しかしそれぞれが分立するのではなく、接近する形で研究・教育を行っています。4つの領域をまたがる形で研究することで、全体として日本への理解を深めることができます。

日本語教育リカレントコース（1年コース・10月入学）

日本語教育リカレントコースは、国内外で働く現職の日本語教育者を対象にしたコースです。本学で1年間、勉学・研究に専念して学位（修士号）を取得し、その後、所属機関に戻り、日本語教育の発展に貢献する道を歩む方が、募集の対象となります。応募資格は、①3年以上の日本語教育歴をもつこと、②日本語が母語でない方については、日本語能力試験N2以上を取得していること、などです。

2019年度修士論文

コース	修士論文の題目
国際日本コース	中国日本語ネットスクール学習者の現状調査に関する研究 —教師への提言を視野に入れる— 名詞を並列する「や」についての分析
	村上春樹作品における「小人」という表象の系譜
	受身表現に相当する機能動詞文について
	話し言葉における受身文の日中対照研究 —受動者と動作主をめぐる考察—
	外国につながる子どもたちに対する学習支援における学生ボランティアの役割と可能性
	接触場面と母語場面におけるあいづちの異同 —日本語とポルトガル語—
	日韓国際結婚家庭の言語使用の様相 —談話分析とインタビューによるケーススタディから—
	大伴家持における恋歌と漢詩の対比研究
	計画的行動理論を援用した日本語学習意欲の長期変容プロセスの解明 —日本国内のBangladesh語IT人材に対する学習行動促進の支援策の検討—
	群馬県前橋市における日本語指導が必要な児童生徒への日本語個別指導の現状 —個別指導にあたる日本語巡回指導員の語りから—
	「AはBのX」形式の意味・用法に関する研究
	教師添削とピア・レスポンスの順番が作文推敲に与える影響
	書き言葉における日中非情物主語受身文
	香港人日本語学習者による不満表明および不満表明における配慮表現 —日本語母語話者および広東語母語話者と比較して—
	中国人日本語学習者の発音習得ポリシーとストラテジー —留学経験ありと留学経験なしの学習者を中心に—
	中国人日本語学習者における日本語の真偽疑問文と疑問詞疑問文のイントネーション
	「～（よ）うとする」の意味と用法
	対話における日本語学習者の使用語彙分析 —日本語学習者縦断コーパスに基づく分析—
	謝罪談話の日中対照研究 —謝罪への応答を中心に—
	中国人日本語学習者の和製英語の意味推測について
	日本語母語場面と日中接触場面における「ナラティブ」の受け手が行う言語・非言語行動に関する分析 —フォローアップ・インタビューによる語り手と受け手の意識の考察から—
	中国の日本語専攻用教科書「総合日本語」におけるオノマトペの考察 —日本語教育の観点から構文的特徴と意味的特徴を分析する—
	現代日本語におけるとりたてて「だけ」「しか」の意味と用法の記述的研究 —中上級日本語学習者の立場から—
	中国のオンライン日本語教育における学習者主体アプローチの運用
	カンボジアの日本語教育における反転授業の効果的な活用 —授受表現に着目して—
	現代日本語に見る外来語の多義性に関する研究 —外来語形容動詞「ハード」を中心に—
	三島由紀夫文学における「政治と恋愛」 —「鹿鳴館」と「宴のあと」を通して—
	日本語学習におけるL1L2字幕の認知処理に関する考察 —アイカメラによる視線解析を通して—
	「突き放す」ものを再考する
	幸田露伴の作品に潜んでいる反抗
	中国語を母語とする日本語学習者の依頼の際の文末表現の使用に関する調査とその分析 —授受表現を中心に—
	大江健三郎文学における障害児の表象について
	低学年中国語SL児童生徒の漢字リライト教材作成のための基礎調査 —表記の異なりによる漢字熟語の理解度への影響の測定とその分析—
	インタラクティブの三要素の枠組みからみる配慮 —食事場面における実質行動を伴う会話データの分析—
中国人日本語学習者の日本語での会話における無助詞現象	
狐婚譚の研究 —信太妻ものの主題の変遷をめぐって—	
日本のバラエティ番組における外国人のイメージ —マルチモーダル批判的談話分析による考察—	
コース	修士論文の題目
日本語教育 リカレントコース	日本語教育における辞書アプリ使用の有効性について —マレーシア政府派遣留学生を対象として—
	シンハラ語を母語とする日本語学習者の意見文に見られる接続詞の使用傾向 —日本語母語話者との比較を通じて—
	初級日本語クラス内活動における訂正フィードバック —タイ人日本語教師と日本人日本語教師の比較—
	CBIテーマベースを用いた日本語読解教育 —ベトナムの学部教育（日本語専攻）における実践からの考察—

総合国際学研究科	[研究科共通科目]	総合国際学研究基礎／異分野交流ゼミ／多文化コーディネーション研究／言語教育基礎／日本語教育基礎／日本語教育実習研究／世界史教育／国際行政入門／短期海外留学
世界言語社会専攻	[専攻共通科目]	学術英語演習／学術日本語演習／学術ドイツ語演習／学術フランス語演習／学術イタリア語演習／学術スペイン語演習／学術ポルトガル語演習／学術ロシア語演習／学術ポーランド語演習／学術チェコ語演習／学術中国語演習／学術朝鮮語演習／学術モンゴル語演習／学術インドネシア語演習／学術マレーシア語演習／学術フィリピン語演習／学術タイ語演習／学術ラオス語演習／学術ベトナム語演習／学術カンボジア語演習／学術ビルマ語演習／学術ヒンディー語演習／学術ウルドゥー語演習／学術ベンガル語演習／学術アラビア語演習／学術ベルシア語演習／学術トルコ語演習／アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎／アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究／修士論文修士研究ゼミ
	言語文化コース	英語学・英語教育学研究／ヨーロッパ・アメリカ言語研究／アジア・アフリカ言語研究／言語学研究／音声学研究／言語情報学研究／認知科学研究／通訳翻訳実践研究／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究／アジア・アフリカ文学・文化研究／古典文学・文化研究／人間文化研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究
	国際社会コース	ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／現代世界論研究／国際関係研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究
	Peace and Conflict Studies (PCS) コース	Foundation for Peacebuilding／Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／PCS Research Methodology／International Relations and Cooperation
国際日本専攻	[専攻共通科目]	日本語学研究／対照日本語研究／日本語教育学研究／日本語教育実践研究／日本語文学・文化研究／日本比較文学・文化研究／日本社会研究／国際文化交流研究／Japan Studies／発信英語演習／発信日本語演習／修士論文修士研究ゼミ

本学の特色を生かした科目

■ 総合国際学研究基礎

研究を遂行する基礎力を身につける

大学院生としてスタートを切る1年次春学期に、研究に必要なリサーチ力、プレゼンテーション力、ディベート力などを身につけ、研究基礎力を養うための授業です。リサーチデザイン、統計手法などに関する講義を受けると同時に、日本語や英語で研究計画をプレゼンテーションする機会も設けます。(2単位必修)

■ 異分野交流ゼミ

分野や地域の枠を超えた活発な議論の輪

大学院生が数人単位でグループを形成し、分野や対象地域を超えた異分野交流を行うゼミです。異なる広がりをもつテーマを扱う学生が集まり、議論の中で自身の研究の足がかりを得ることを目的とします。テーマに関わる教員を「招待」し、そのコメントを活用することもスリリングで有用でしょう。(2単位必修)

■ 学術表現演習

論文を読むプレゼンをする

次の言語で行われます。英語、日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ポーランド語、チェコ語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ベンガル語、アラビア語、ベルシア語、トルコ語

■ 専門科目群

専攻・コースに応じた多様で専門的な授業群

大学院での学びの中核となるのは専門科目の履修です。主任指導教員や副指導教員の授業、また関連する分野の教員の授業を履修します。そこでの指導に沿って修士研究を進めます。2年次には、「修士論文修士研究ゼミ」を履修し、修士論文を作成します。

■ 短期海外留学

Joint Education Programによる短期海外留学

本学では、春学期(4月～7月初旬)、夏学期(7月中旬～9月)、秋学期(10月～1月中旬)、冬学期(1月下旬～3月)からなるTUFSクォーター制を採用しています。海外で長期にわたる調査・研究が可能となるように、夏学期と冬学期には必修科目を置いていません。また、夏学期や冬学期を中心に海外協定校と「Joint Education Program」を行っており、海外協定校の教員のもとで指導を受ける、資料収集や現地調査を行うなど、多様な短期海外留学の機会があります。海外大学のサマーコースに参加する選択肢も豊富です。春に説明会を行うなど、留学支援体制も充実しています。

世界言語社会専攻

世界を複合的・総合的に捉える

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会を複合的・総合的に捉える視点から教育・研究を行います。専門的知識や研究能力をもちつつ、一方で総合的で柔軟な対応力をもって多面的な課題に取り組むことができる人材を養成し、社会に送り出します。本専攻には、開設科目の体系を明示するため、4つの教育プログラムを置きます。学生は、主任指導教員が指導する分野のプログラムを選択し、所属プログラム内で体系的に履修するとともに、領域横断的な視座を獲得するため、他のプログラムで開講する隣接分野の科目を幅広く履修することが可能です。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

言語文化研究プログラム

世界諸地域の言語や文化を個別あるいは対照的に研究対象とするとともに、複言語・複文化の視点を重視し、領域横断的な研究に取り組みます。

国際社会研究プログラム

世界諸地域の具体的な歴史や社会、文化を分析し、国際社会の問題に取り組むための地域横断的な研究を行います。

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

アジア・アフリカを対象に、フィールドワーク手法を特色・強みとする言語学研究、人類学研究、地域研究分野の研究者を養成するプログラムです。

Peace and Conflict Studiesプログラム（10月入学）

主に紛争当事国などからの留学生を受け入れ、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育は英語で行われます。

【養成する人材像】

- ◎ 世界諸地域の言語の高度な運用能力をもち、その文化・社会に対する的確な知識・知見を身につけ、現代社会における諸課題を複合的・総合的に捉えることのできる人材
- ◎ 言語研究、文学・文化研究、地域研究、国際関係研究、紛争・平和構築研究（Peace and Conflict Studies）等の領域における高度な専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者、国際機関等の専門職として活躍する高度職業人

2019年度博士論文

イラン立憲革命期における詩的言語の研究

ブラジル多国籍企業、労働者党政権下の台頭
—事例研究：3社の優位性・劣位性に及ぼす国家と為替相場の影響—

ダグール語の述部の諸相

定形性の観点から見た現代朝鮮語の副詞節

On the 'be done' Construction in Irish

ウズベク語における形動詞と動名詞による従属節について

ニヴ語東サハリン方言の参照文法

セルビア語における対格名詞と動詞との組み合わせをめぐって

生涯としての〈詩〉—シュテファン・パチウの〈郷愁〉と詩の親密圏

元ストリート・チルドレンの社会教育の実践過程に関する研究
—ニカラグアにおけるNGOの支援活動を事例として—

南琉球八重山語波照間方言の文法

事象を項に取るドイツ語形容詞と事象を表す語句の統語論的実現と意味的特性
—事象のアスペクト的解釈の対立を手掛かりに—

高齢者ケアと現代ジャワの家族
—ンガンチャニ（そばに居る）ということの社会的動態—

Virtual construction of the ethnic self: An analysis of the visual framing of in-/out-group perceptions (of Sinhalese) on social media in Sri Lanka (2009-2018)

フランス語複合名詞の生産的な形成法について
Construction Morphologyの枠組みを用いた形態統語的考察

朝鮮語ソウル方言の子音対立に関する研究
—語頭における3系列子音の対立システム—

現代ジャワの若者におけるジャワ語敬語使用の状況

国際日本専攻

国際的な視座で「日本」を研究する

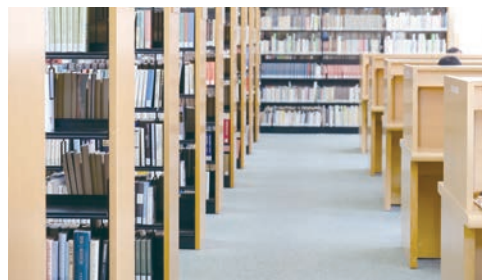
国際日本専攻では、国際的な視座から「日本」を研究するため、総合的な日本研究の視野を涵養しつつ、日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究等の専門分野に応じた体系的な研究指導を行います。昨今の国際情勢の中で、「世界の中の日本」を客観的に理解したうえで、世界に向け日本を発信することができる人材の育成が急務となっていることから、本専攻は、こうしたニーズに応える日本人・留学生を社会に送り出します。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

国際日本研究プログラム

日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけます。

〔養成する人材像〕

- ◎ 日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけた人材。特に、留学生の場合は、研究遂行に必要な高度な日本語力と、日本社会への理解を備えた人材
- ◎ 日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究、日本政治経済研究などの分野についての深い専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者および当該分野の専門知識をもった高度職業人。海外の高等教育機関等で活躍する日本語教育者



2019年度博士論文

NEOLIBERALISM AND THE POLITICS OF REPRODUCTION IN CONTEMPORARY JAPAN:
THE "REPRODUCTIVE ENTREPRENEUR" IN THE "ACTIVE PURSUIT OF PREGNANCY" (NINKATSU)

奈良朝・平安朝前期の漢文学と文人

日本語学校非常勤講師の職業継続の要因
—キャリア・アンカー（選択により見えてくる職業の価値）に注目して—

Examining the Promotion of Learning and Construction of Social Capital for Children in Poverty:
A Case Study of a Learning Support Program in Japan

韓国語と日本語の内外空間名詞の対照研究
—コーパスの用例に基づく連語構成の分析を中心に—

共同サステイナビリティ研究専攻

イノベーションを生み出す

共同サステイナビリティ研究専攻は、東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で設置する複合新領域の研究専攻です。(2019年4月新設)

本共同専攻は、今日人類が直面するグローバルな課題—とりわけ開発、環境、平和に関わる問題—の解決に向けて取り組むことがサステイナビリティ（持続可能性）研究の使命と意義であるとの考えに基づいて2019年度から設立された、博士後期課程教育研究プログラムです。

「持続可能な開発（Sustainable Development）」という用語は、もともと「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）が1987年に刊行した報告書によって世界的に広がったもので、そこでは環境問題が強く意識されていました。従来のサステイナビリティ研究においても、やはりその中心に環境問題が据えられていました。

一方、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では2016年から2030年までの国際目標「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が掲げられ、環境問題にとどまらず、貧困、保健・衛生、教育、ガバナンス、平和など、開発に関わる幅広い問題がその対象とされています。本共同専攻もこのSDGsと同じく、幅広い射程から「サステイナビリティ」を捉えます。

本共同専攻では、国連によって理念として示されたこうしたSDGsを、三大学の強み—「言語・リベラルアーツ及び地域研究の教育研究力」（東外大）、「食料、エネルギー、ライフサイエンス分野の教育研究力」（農工大）、「情報・通信（ICT）、人工知能・ロボティクス、光工学分野の教育研究力」（電通大）—を活かした文理協働の観点から現実的な課題として焦点化し、実践的な解決を目指す研究に取り組みます。

特色

- ◎ これまでの三大学によるさまざまな連携事業の実施をもとに人材養成を展開
- ◎ 文理各分野における卓越したユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- ◎ 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開
- ◎ 複合新領域の研究の推進

入学定員

東京外国語大学（総合国際学研究科） 3人

東京農工大学（工学府） 4人

電気通信大学（情報理工学研究科） 4人

学位

Doctor of Philosophy 博士（学術）

養成する人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点からSDGsの課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材の育成

具体的な能力・学識

- ◎ 普遍的かつ実践的学識を基盤とする国際感覚と倫理観（国際的センス）
- ◎ 国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎理論と技法（スキル）
- ◎ 政治・経済、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域における高度で専門的な知見と研究力
- ◎ 異文化・異分野の背景や価値観を理解し、多様な見解を調整できる適用力と調整できる合意形成力
- ◎ 国際通用性のある倫理的思考力と機能的伝達能力（コミュニケーション力）

博士前期課程教員一覧

(A)：アジア・アフリカ言語文化研究所所属教員 (※)は主任指導教員になることができない教員
教員一覧の内容は2020年度当初の情報をもとに作成したものです。教員の異動等により、今後、変更の可能性があることをご了承ください。

世界言語社会専攻

言語文化コース

教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
秋廣 尚恵	フランス語学
荒川 慎太郎 (A)	言語学
荒原 邦博	フランス文学、文化史
粟屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	英語学、認知言語学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラヴ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
呉人 徳司 (A)	言語学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
小久保 真理江 (※)	芸術文化
児倉 徳和 (A)	記述言語学、シベ語
齋藤 弘子	英語音声学
逆井 聡人 (※)	比較文学(近現代東アジア)
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
品川 大輔 (A)	記述言語学

周 育佳 (※)	言語教育学、英語教育学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
ティップティエンボン・コースイット	タイ文化・文学
投野 由紀夫	コーパス言語学
土佐 桂子	東南アジア人類学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
西畑 香里 (※)	通訳翻訳学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
萩田 博	ウルドゥー語学・文学
橋本 雄一	中国近現代文学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
ボルロンガン・アリアン・マカリンガ (※)	社会言語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
真鍋 求	神経生理学

高宮 (小牧) 健策	ウルドゥー語
丸山 空大 (※)	宗教学、近代ユダヤ思想
水野 善文	インド思想
峰岸 真琴 (A)	オーストラリア諸語
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
三宅 登之	現代中国語
三代川 寛子 (※)	エジプト近代史
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
山田 洋平 (※)	言語学
山本 恭裕 (※)	言語学
山本 真司	イタリア語学
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史

大川 正彦	現代政治理論
大島 由香子 (※)	ヨーロッパ史・アメリカ史
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
小野 拓也 (※)	ドイツ近現代史
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
河合 香史 (A)	東アフリカ牧畜民族研究
川本 智史 (※)	歴史学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
木村 暁 (※)	中央アジア史
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
栗原 浩英 (A)	ベトナム現代史
近藤 信彰 (A)	イラン近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東近現代史
島田 志津夫 (※)	中央アジア地域研究
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史(近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会学
高橋 均	ラテンアメリカ史
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論
田島 陽一	国際経済学
巽 由樹子	ロシア近現代史

田邊 佳美 (※)	社会学
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵	国際経済学
床呂 郁哉 (A)	東南アジア人類学
中山 智香子	経済思想、社会思想
中山 裕美	国際関係論
丹羽 泉	朝鮮宗教学
野田 仁 (A)	中央アジア史
萩原 生	バスカ地域研究／言語社会学
福嶋 千穂	近世ヨーロッパ・リトアニア史
藤井 豪 (※)	歴史学
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
舩方 周一郎 (※)	政治学
松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
李 孝徳	比較文学
若松 邦弘	比較政治
渡辺 周 (※)	経営学

Peace and Conflict Studies コース

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
篠田 彰 (※)	教育学、平和学
松永 泰行	政治学、国際関係論

国際日本専攻

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学
石澤 敏	日本語教育学
伊集院 郁子	日本語教育学

伊東 克洋 (※)	日本語教育学
イリス・ハウカンパ (※)	日本映画史、映画研究
海野 多枝	言語教育学
大津 友美	日本語教育学
川村 大	日本語学
木村 正美 (※)	日本史、日本国際関係・外交

楠本 徹也	日本語学
工藤 嘉名子	日本語教育学
小松 由美	異文化間コミュニケーション
佐藤 正広	日本近現代史
柴田 勝二	日本近代文学
嶋原 耕一	日本語学
菅長 理恵	日本語学、日本文学
鈴木 智美	日本語教育学
鈴木 美加	日本語教育学

伊達 宏子 (※)	日本語教育学
谷口 龍子	語学論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
中村 彰	日英統語論
花園 悟	日本語学
春名 展生	日本史、日本政治
フィリップ・シードン	現代日本研究

藤村 知子	日本語教育学
ポーター・ジョン	日本史
村尾 誠一	日本古典文学
蓮 隆博	数学
幸松 英憲 (※)	日本語学
林 俊成	言語教育学

博士後期課程教員一覧

世界言語社会専攻

言語文化研究プログラム

教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教学
秋廣 尚恵	フランス語学
荒原 邦博	フランス文学、文化史
粟屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
大谷 直輝	英語学、認知言語学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラヴ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
齋藤 弘子	英語音声学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
武田 千香	ブラジル文学

田島 充士	教育心理学
趙 義成	朝鮮語学
ティップティエンボン・コースイット	タイ文学
投野 由紀夫	コーパス言語学
土佐 桂子	東南アジア人類学
内藤 稔	コミュニティ通訳研究
中川 裕	音声学・音韻論
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
橋本 雄一	中国近現代文学
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学
前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
高宮 (小牧) 健策	ウルドゥー語
水野 善文	インド思想
箕浦 信勝	言語学、手話諸言語、アサバシカ語
菅原 睦	チュルク語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理

森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史

国際社会研究プログラム

教員名	専門分野
青木 雅浩	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代アラブ政治
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
岩崎 稔	哲学、政治思想
大石 高典	文化人類学・民俗学
大川 正彦	現代政治理論
小笠原 欣幸	台湾政治
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
加藤 美帆	教育社会学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東近現代史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究

芹生 尚子	フランス社会史(近世・近代)
左右田 直規	マレーシア政治社会学
高橋 均	ラテンアメリカ史
巽 由樹子	ロシア近現代史
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
出町 一恵	国際経済学
中山 裕美	国際関係論
丹羽 泉	朝鮮宗教学
福嶋 千穂	近世ヨーロッパ・リトアニア史
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学
松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
若松 邦弘	比較政治

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

教員名	専門分野
荒川 慎太郎	西夏語学
石川 博樹	アフリカ史
伊藤 智ゆき	音韻論
太田 信宏	インドの歴史
小田 淳一	計量文献学
刈谷 康太	西アフリカ・イスラーム地域研究

河合 香史	東アフリカ牧畜民族研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
呉人 徳司	言語学
黒木 英充	東アジア近・現代史
児倉 徳和	記述言語学、シベ語
近藤 信彰	イラン近代史
澤田 英夫	ビルマ系多言語学
椎野 若菜	東アフリカ民族誌学
塩原 朝子	インドネシア諸言語の記述研究
品川 大輔	記述言語学
高松 洋一	古文書学、オスマン朝史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床呂 郁哉	東南アジア人類学
中山 俊秀	北米先住民諸言語
西井 涼子	東南アジア人類学
野田 仁	中央アジア史
星 泉	チベット語学
峰岸 真琴	オーストラリア諸語
山越 康裕	モンゴル諸語
吉田 ゆかり	文化人類学・民俗学
渡辺 己	セイリッシュ語

Peace and Conflict Studies プログラム

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学・国際関係論

国際日本専攻

国際日本研究プログラム

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学

伊集院 郁子	日本語教育
海野 多枝	言語教育学
川村 大	日本語学
佐藤 正広	日本近現代史
柴田 勝二	日本近代文学

共同サステイナビリティ研究専攻

教員名	専門分野
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論

中山 智香子	経済思想・社会思想
李 孝徳	比較文学

鈴木 智美	日本語教育学
谷口 龍子	語学論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
花園 悟	日本語学

春名 展生	日本史、日本政治
フィリップ・シードン	現代日本研究
ポーター・ジョン	日本史
村尾 誠一	日本古典文学

主な就職先

博士前期課程修了者の主な就職先

■ 製造業

(株)伊藤園/出光興産(株)/住友化学(株)/(株)ブリヂストン/住友電気工業(株)/蛇の目マシン工業(株)/スリーエムジャパン(株)/カシオ計算機(株)/ソニー(株)/ダイキン工業(株)/(株)東芝/日本アイ・ピー・エム(株)/日本電気(株)/日本トムソン(株)/日本ヒューレット・パカード(株)/パナソニック(株)/(株)日立製作所/富士ゼロックス(株)/富士通(株)/本田技研工業(株)/マツダ(株)/三菱自動車工業(株)/三菱重工業(株)/森永乳業(株)/矢崎総業(株)/(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント/大王製紙(株)/(株)リコー/ヤマハ(株)/日立アプライアンス(株)/日立オートモティブシステムズ(株)/(株)レナウン/フルサトグループ/住友重機械工業(株)/アルプスアルパイン(株)/三菱日立パワーシステムズ(株)/いすゞ自動車(株)/自動車部品工業(株)

■ 電気・ガス・熱供給・水道業

中国電力(株)/東京ガス(株)

■ 鉱業、採石業、砂利採取業

国際石油開発帝石(株)

■ 情報通信業

(株)インターネットイニシアティブ/(一社)共同通信社/慶應義塾大学出版会(株)/小松情報システムサービス(株)/(株)産業経済新聞社/上海東方テレビ(中国)/(株)集英社/(株)大和総研/(株)中日新聞社/(株)日本経済新聞社/(株)西日本新聞社/日本放送協会(NHK)/(株)東日本放送/(株)毎日新聞社/富士ソフト(株)/富士ゼロックスシステムサービス(株)/明治図書出版(株)/読売新聞グループ/(株)リクルートホールディングス/勉強出版(株)/(財)ラチオプレス/(株)イーブックイニシアティブジャパン/(株)コムニック/ソニーミュージックグループ/(株)朝日出版社/NTTコミュニケーションズ(株)/SAKURA MOBILE/YAMAGATA INTECH(株)/パクテラ・テクノロジー・ジャパン(株)/プラステル(株)/楽天(株)

■ 運輸業、郵便業

(株)商船三井/ヤマト運輸(株)/日本通運(株)

■ 卸売・小売業

宇津商事(株)/(株)カインズ/住友商事(株)/(株)セブン-イレブン・ジャパン/双日(株)/豊田通商(株)/(株)日立ハイテクノロジーズ/三井物産(株)/三菱商事(株)/森村商事(株)/(株)ルイ・ヴィトンジャパンカンパニー/(株)ユニクロ/(株)ニトリ/阪和興業(株)/(株)ノジマ/アスクル(株)/(株)大月真珠/(株)retro(AG)

■ 金融業・保険業

アメリカン・エキスプレス・ジャパン(株)/岡三証券(株)/JPモルガン証券(株)/ソシエテ・ジェネラル証券(株)/大和証券(株)/日本銀行/(株)日本政策投資銀行/(株)日本政策金融公庫/みずほ証券(株)/(株)三菱UFJ銀行/(株)ゆうちょ銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)

■ 建設業

新日鉄住金エンジニアリング(株)/大成建設(株)

■ 不動産業

野村不動産(株)/(株)エレマックス/アーバンシステム(株)

■ 教育、学習支援業・学校教育

慶應義塾大学/(株)栄光/神奈川県立高等学校/鎌倉学園中学校・高等学校/佼成学園女子中学高等学校/國學院高等学校/埼玉県立小学校/昭和学院秀英中学校・高等学校/帝京大学/(株)Z会/東京外国語大学/東京大学/東京都立中学校/(株)ベネッセコーポレーション/宮城県立高等学校/山形県立高等学校/早稲田大学/東京農業大学/海城中学高等学校/ベオグラード大学(セルビア)/女子学院中学校・高等学校/学習院女子中・高等科/福州大学(中国)/桜美林大学/先端教育機構/筑波大学/工学院大学/東野高等学校/(株)ECC/(株)中萬学院/(株)朝日カルチャーセンター

■ 医療、福祉

日本赤十字社

■ サービス業

(独)国際交流基金/(独)日本学術振興会/(財)日本国際協力システム/(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所/(株)図書館流通センター/(公財)新国立劇場運営財団/(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構/(独)住宅金融支援機構/(公社)日本・インドネシア経済協力事業協会/ヒューマンリソシア(株)/(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構/(社)日本貿易会/(株)JPホールディングス/(独)日本学生支援機構

■ 公務

外務省/国立国会図書館/総務省(関東管区行政評価局)/東京都庁/農林水産省/防衛省(※自衛隊など含む)/横浜市役所/原子力規制庁/浦安市(千葉県)/杉並区役所

■ 学術研究専門・技術サービス業

アクセンチュア(株)/アンダーソン・毛利・友常法律事務所/グレイステクノロジー(株)/新エネルギー・産業技術総合開発機構/(株)テクニカルトランスレーションハウス/デロイト トーマツ コンサルティング合同会社/(株)電通/(財)日本海事協会/日本工営(株)/(株)ヒューマンサイエンス/(株)ホンヤク出版社/(株)ワルドインテック/(株)ブリーコラージュ/(株)ヴィッツ/(株)NTTデータ経営研究所/(株)UL Japan/(株)ワークスアプリケーションズ/KPMG中国/アイテックジャパン(株)/アビームコンサルティング(株)/ソフトブレン・サービス(株)/日本システム技術(株)

■ 宿泊業、飲食サービス業

(株)ベッパーフードサービス/(株)星野リゾート

■ 生活関連サービス業、娯楽業

(株)オリエンタルランド/(株)JTB/(株)CECIL/クラブツーリズム(株)/(株)ワールド航空サービス

博士後期課程修了者の主な就職先

■ 情報通信業

NHN PlayArt(株)

■ 卸売・小売業

(株)Super Dieboard System in Japan

■ 教育、学習支援業・学校教育

廈門大学(中国)/京都産業大学/高知大学/国際交流基金バンコク日本文化センター/島根大学/駿河台大学/西南学院大学/燕山大学外国語学院(中国)/青島科学技術大学(中国)/帝京科学大学総合教育センター/東京外国語大学/明星大学/東京早稲田外国語学校/名古屋外国語大学/国際教養大学/タシケント国立東洋学大学(ウズベキスタン)/中央大学高等学校/神奈川工科大学/雲南大学(中国)/広島大学/広島文教大学/山梨学院大学/上智大学/慶應義塾大学/筑波大学

■ サービス業

(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所

■ 公務

法務省

2021年度入学者選抜日程

入学者選抜日程の最新情報は、大学院総合国際学研究科のウェブサイトに掲載します。

博士前期課程

■募集人員

専攻	入学定員	コース	募集人員			合計
			特別選抜（推薦）	秋季	冬季	
世界言語社会専攻	102人	言語文化コース	若干名	50人*	若干名	50人
		国際社会コース	若干名	40人*	若干名	40人
		Peace and Conflict Studiesコース	—	—	12人	12人
国際日本専攻	46人	国際日本コース	若干名	40人*	若干名	40人
		日本語教育リカレントコース	—	6人	—	6人

*秋季募集の募集人員には、「冬季募集」「特別選抜（推薦入試）」の募集人員を含む。

■入学試験日程

特別選抜（推薦入試）[2021年4月入学]

出願期間	選抜期日 第1次選考（書類選考）	第1次合格者発表	第2次選考（口述試験）	最終合格者発表	入学手続
2020年 6月29日(月)～7月1日(水)	2020年7月上旬	2020年7月10日(金)	2020年7月18日(土)	2020年7月29日(水)	2021年 1月19日(火)、1月20日(水)

秋季募集 [2021年4月入学]

出願期間	選抜期日 第1次選考（筆答試験）	第1次合格者発表	第2次選考（口述試験）	最終合格者発表	入学手続
2020年 9月7日(月)～9月10日(木)	2020年9月26日(土)	2020年10月2日(金)	2020年10月10日(土)	2020年10月21日(水)	2021年 1月19日(火)、1月20日(水)

冬季募集 [2021年4月入学] Peace and Conflict Studies コースは別日程

出願期間	選抜期日 第1次選考（筆答試験）*	第2次選考（口述試験）	最終合格者発表	入学手続
2021年 1月4日(月)～1月6日(水)	2021年2月5日(金) ※国際日本コースの第1次選考は書類選考	2021年2月5日(金) または2月6日(土)	2021年2月22日(月)	2021年 3月26日(金)、3月27日(土)

国際日本専攻 日本語教育リカレントコース [2021年10月入学]

出願期間	選抜期日 口述試験（インターネットを活用したビデオ通話による面接）	最終合格者発表	入学手続
2020年 9月7日(月)～9月10日(木)	2020年 10月5日(月)～10月10日(土)のうちいずれか1日	2020年10月21日(水)	2021年6月下旬～7月上旬

博士後期課程

■募集人員

専攻	募集人員		合計
	4月入学	10月入学	
世界言語社会専攻	22人	5人*	27人
国際日本専攻	9人	1人	10人
共同サステイナビリティ研究専攻	2人	1人	3人

*世界言語社会専攻の「10月入学」に志願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- ①Peace and Conflict Studies (PCS) 分野を志願する者 ②出願時において、日本国を含む各国政府機関や国際機関等の正規の職員として、日本国以外で勤務中の者
③希望指導教員に出願の承諾を得たうえで、事前審査で出願を認められた者 ④その他、本学大学院総合国際学研究科長が適当と認めた者

■入学試験日程

[2021年4月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日 筆答試験	口述試験	最終合格者発表	入学手続
2020年11月16日(月)～ 11月19日(木)	2020年11月16日(月)～ 2021年1月6日(水)	2021年1月23日(土)	2021年1月23日(土) または1月24日(日)	2021年2月22日(月)	2021年3月26日(金)、 3月27日(土)

[2021年10月入学]

出願期間	論文提出期間	選抜期日 口述試験	最終合格者発表	入学手続
2021年 3月1日(月)～5月7日(金)	2021年 3月1日(月)～5月21日(金)	2021年5月下旬～6月上旬	2021年6月下旬	2021年7月下旬頃

府中キャンパスへのアクセス

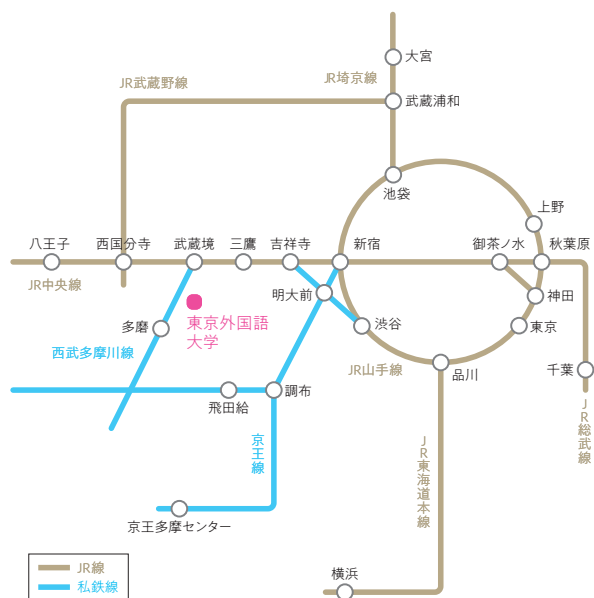


電車

- JR中央線
「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
- 京王線
「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

- 京王線
「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車



西武多摩川線「多磨」駅までのアクセス ※目安時間

- 東京駅から 中央線快速利用 46分
- 上野駅から 京浜東北線・中央線快速利用 52分
- 横浜駅から 東海道本線利用 67分
- 千葉駅から 総武線快速・中央線快速利用 98分
- 大宮駅から 埼京線・武蔵野線利用 69分



国立大学法人 東京外国語大学
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
<http://www.tufts.ac.jp>

お問い合わせ先

Tel 042-330-5179